

平成30年度播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事概要

日 時	平成31年3月27日(水) 10:00 ~ 11:30
場 所	播磨町福祉会館3階会議室
出席者	<p>【 播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員 】</p> <p>鶴井 昌徹 (播磨町新島連絡協議会 会長)</p> <p>松井 昭雄 (商工会)</p> <p>大亀 亨 (商店主)</p> <p>四海 達也 (兵庫県東播磨県民局 局長)</p> <p>有馬 誠司 (加古川公共職業安定所 次長)</p> <p>笹田 哲男 (兵庫大学短期大学部 保育科教授)</p> <p>大塚 毅彦 (明石工業高等専門学校 建築学科教授)</p> <p>北 幸治 (播磨町労働者福祉協議会 副会長)</p> <p>荒谷 ふみ子 (住民代表)</p> <p>諸鹿 良治 (住民代表)</p> <p>【 町 】</p> <p>清水 ひろ子 (町長)</p> <p>三村 隆史 (副町長)</p> <p>横田 一 (教育長)</p> <p>岡本 浩一 (理事)</p> <p>浅原 俊也 (理事)</p> <p>尾崎 直美 (理事)</p> <p>喜多 朗 (理事)</p> <p>武田 健二 (理事)</p> <p>前田 忠男 (会計管理者)</p> <p>【 事務局 】</p> <p>松本 弘毅 (企画グループ統括)</p> <p>野中 照代 (企画グループリーダー)</p> <p>大友 敬 (企画グループ主事)</p>
欠席者	<p>【 播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員 】</p> <p>西川 健一 (みなと銀行 本荘支店 支店長)</p> <p>志賀 俊彦 (神戸新聞社 東播支社 支社長)</p>

議事1 開会

議事2 挨拶

(町長)

年度末も押し詰まってまいりましたが、ご多用中にも関わらずご出席いただき、ありがとうございます。平成31年度(2019年度)の施政方針では、「人生100年時代を見据えて」という副題を設けました。「人生80年」時代が終わり「人生100年」時代を迎えようとしている今日、個人が生き方を考え直さなければならないように、まちづくりも、その在り方を再検討しなくてはならないと考えております。「今がいい」というだけでなく、今後100年、あるいはそれ以上の期間にわたって、まちが、持続的に発展していけるような行政運営。その成果を、次世代が良好なかたちで継承していけるような行政運営を実現する必要があると考えております。そのような立場から、財政面においても内部での検討を重ね、また、外部からのご意見も頂戴しながら、諸施策を提示させていただいているという状況です。

本日の会議では、各界のさまざまな方から、「播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての貴重なご意見・ご提言をいただき、それらを今後の行政運営・予算編成に反映させて参りたいと思っております。

年度末の貴重なお時間を頂戴してご審議いただくこととなりますが、最後までよろしくお願ひ申し上げます。

議事3 委員紹介

(事務局により紹介)

議事4 協議事項

(会長)

議事進行が円滑に進みますよう、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本日の協議事項につきましては、事務局からの一括説明があった後、質疑の時間とさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では、議事に入らせていただきます。

次第に沿って進めていきます。

まず、協議事項(1)の「播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略の主要施策の取組状況」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る主要施策の平成30年度新規事業及び拡充事業を中心に、資料2を基に報告

播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P I の進捗状況について、昨年度からの更新箇所を中心に、資料3を基に報告

(会長)

ありがとうございました。

それでは、主要施策の取組状況及びK P I の進捗状況について、ご意見・ご質問はございませんか。

(委員)

町長が先ほどご挨拶の中で、「人生100年時代」に触れられましたが、生涯学習等をどう充実させていくかが大切になってくると思います。

4月から始まる「働き方改革」の面から考えますと、20代～30代の若い方々は、一日の労働の後に、キャリアアップのために勉強をしたり、副業を行ったりするような時代に変化してきています。また60代以降のリタイア後の世代でも、自分の体調等にに応じて、第二の就労という形態で、まだまだ働くという方が増えています。このような状況下で、そのような人たちを、行政が何らかのかたちでサポートするような視点が大事になってくると思います。

また、人口の問題はどこの地方自治体でも悩ましい問題ですが、「活動人口」と「関係人口」を増やしていくことが重要だと思います。「活動人口」の増加については、播磨町は地域活動がとても活発なので、今後も引き続き地域活動に参加する町民を増やしていくことが大切です。「関係人口」に関しては、私が先日訪ねた岡山県西粟倉村の例が参考になるかと思います。西粟倉村では、「関係人口」を増加させるための様々なプロジェクトが実施されています。西粟倉村を出た人、西粟倉村のプロジェクトに関心がある人との繋がりを重視し、マンパワーや知恵を各種プロジェクトへ活かすための基盤づくりが、この2月頃から開始されています。例えば播磨町で言いますと、町を出て大阪などで働いている元町民の方々にとって、故郷である町のことはすごく関心があると思います。「アサリの養殖」など6次産業化に向けた動きなどを活発にされておられるので、町内の住民への周知も大事だが、一方で視点を外に向けて、元町民の方や、町民ではないけど播磨町へ何らかの寄与をしたい、関わりたいという方を捕まえていくような施策が大事になってくるのではないのでしょうか。

また、播磨町の魅力を挙げれば、穏やかに暮らしていけるまち、という点があると思います。一度町外へ出た人も、町の充実した子育て施策などに魅力を感じ、「播磨町で穏やかに過ごしていきたい」と思うようになるかも知れません。「子育てアプリの導入」などもすごくいい事業だと思いますので、こういったことをより積極的にPRしていただきたいと思います。

最後に一つだけ質問です。K P I の進捗状況を見ますと、「クラウドファンディング成功事例数」が、まだ目標値に達していないようですが、町で何らかの起業をしたいとい

う方を支援して終了ということではなく、また次のクラウドファンディングをしていただけのようなイノベーターや起業家を養成していくことも大事だと思います。行政と共同で進めるクラウドファンディングのやり方もありますので、ぜひトライしていただきたいと思います。

(事務局)

「クラウドファンディング」につきましては、平成28年度に国の地方創生加速化交付金を活用し、加古川市・稲美町・播磨町の1市2町で実施しました。播磨町では申込みがありませんでしたので実績として0件となっていますが、引き続き播磨町商工会とも連携を図りながら、そのようなお声があれば考えていきたいと思っています。

(町長)

「関係人口」についてですが、播磨町では、町内の学校の卒業生が保護者となって町に帰ってくる人が多いと、教育現場から聞いています。これは、播磨町での生活経験を通じて、地域や教育の環境を高く評価して下さったからだと思っています。播磨町が、さまざまな事業を通じて目指しているのは、「ふるさと回帰」です。町内に大学等があるわけではなく、就職先も町外へ求めていくことになろうかと思っています。ただ、いつか播磨町に帰ってきたい、と思えるような原体験を子どもの頃に持ってもらえる機会を、行政や教育現場が提供する必要があると考えています。ふるさと意識を育てることにより、「今度は自分たちが町を盛り上げていこう」「次の世代につなげていこう」という思いになって播磨町に帰ってきて下さることを願っています。そういう思いから、教育施設の大規模改修、幼稚園や小・中学校におけるエアコン設置、中学校給食などを、近隣市町に先駆けて実施しました。子育て環境の整備についても、さまざまなサービスを提供することにより、町内の子育て世代の方々から、良好な評価をいただいております。事業番号40「海のふれあい事業」ですが、子どもたちに、播磨町は「美しい瀬戸内に面したまち」「港があるまち」であることを実感してもらい、海の恵み等を体験・学習してもらうことで、播磨町への愛着を深めてもらえれば良いと思い、実施しております。子どもたちに対しての事業、多種多様な試みは、全て、将来播磨町を再認識していただき、播磨町の良さに気付いていただき、播磨町に帰ってきていただき、その思いが次の世代にも引き継がれることを願って、実施しているのです。すぐに効果が現れるかどうか分かりませんが、何十年後もしくはそれよりも後に、何らかの効果が出てくるのではないかと期待しています。

(会長)

「働き方改革」に関連して、若い世代又は退職後の世代の学習環境・生活環境をどのように整備していくかが一つのポイントになるのではないかと、ということですが、この点について、他の委員から何かご意見はないでしょうか。

(委員)

公共職業安定所でも、高齢者の求職者が増えています。生涯現役支援窓口を主要ハローワークに設置し、対応しています。65歳未満の定年を設定している事業者は65歳までの雇用が義務付けられていますが、それ以降も働く意思のある方が非常に多く、中には70歳以上の方もいます。その理由の1つに、年金の支給額が少額であるということが考えられます。シルバー人材センターに登録していた方々についても、それだけでは足りず、収入を得たい、働きたいという方が増えております。

(会長)

定年退職後も働きたいという人が増える状況下で、地域活動を担う人を、いかに確保するのが課題になると思われます。播磨町における地域活動の実状を、お聞かせ下さい。

(委員)

「放課後子ども教室」では、地域の方に来ていただき、竹とんぼを作っていたり、うどんを作っていたりしています。地域の方々に、ボランティアとして関わっていただき、見守っていただくことで、顔見知りになり声掛けができるような関係性を構築することができ、核家族で近所に祖父母がいない子どもたちにとっては、ふだん関わることのない世代との交流が生まれて、非常に良かったと思います。自治会では、「餅つき」や「ラジオ体操」などの地域活動が、今も行われています。

(委員)

私は播磨南小学校区に住んでいますが、子どもの数も増え、にぎやかになっています。一方で私は仕事の関係上高齢者の方々と接する機会が多いのですが、地区によって、世代割合が極端に異なっていることを実感しています。新しく開発された地域では、転入された方々が生活し子どもの数も非常に多く、活気もあってよいことだと思いますが、対照的に昔からの地域には、高齢者ばかりが住み、子どもは一人もいないような状態です。全体的にみると、このような地域差があるのはあまり喜ばしい状態ではないと思います。会議資料を見ると、人が増えている印象を受けますが、町内には急速に寂れている地域もあり、そこを何とかできないか、改善策が必要ではないかと感じています。

(町長)

その対策として一番効果的なものは、「空き家対策」だと思います。町内に30～40年前に開発された地域があり、どうしてもその地域は高齢者数が増加してしまう傾向にあると思います。そういった地域では今後も空き家が増加するだろうと予測しています。先般、ある団体との懇談会の中で若い方からお聞きしたのは、播磨町は子育て支援などが充

実しており住みたいが、土地がない、土地が高いということです。先日、周辺地価が発表されましたが、地価が上がっていることは事実で、やむなく他所に家を建てた、という話もあります。旧集落においてこれから空き家が増えていくという中で、空き家のまま放置されれば周辺の方々も不安に思われることと思います。空き家が更地になれば確実に新しい家が建ちます。そういった部分に行政がどう支援し、地域がうまく循環していくためにはどうしたらよいか、このような視点からの「空き家対策」を、改めて検討する必要があります。「家じまい」には多大な時間と労力を要しますが、更地になればすぐに宅地開発されます。空き家の適切な管理と新しい住民が旧集落に入っていけるような循環を実現し、地域全体が活性化するよう、行政として検討していきたいと思っています。

(会長)

「働き方改革」で、今年の4月から時間外労働の上限規制が導入されますが、企業の対応はどのような状況なのでしょうか。

(委員)

「働き方改革」は、企業にとって非常に悩ましいものであると思われます。新島には中小企業も多く、中小企業は、大手企業からの仕事を受けて納期が決まっていく中で、その納期に対応するためには残業せざるを得ないというような面があります。大手企業と同様の働き方改革で残業を規制されると、やりづらい面があるのは確かだと思います。そのことに対しては、経営者も知恵を出して、取り組まなければならないと認識しており、経営者の真価が問われるものと考えています。いろいろな対応策を検討する中で、人員増による状況の改善という方法も1つの対策ですが、人手不足のためすぐに改善できるものでもなく、そのしわ寄せは現従業員の残業となり、なかなか一朝一夕に解決できるものではありません。大企業と同じような対策を短期間で打ち出すことには無理がありますが、努力してまいりたいと思っています。

(委員)

一般に大手と言われる企業では、少しずつ対策が進んでおり、事務職では仕事の仕方に無駄が無いかを点検し、業務の棚卸しを行うことで、業務時間の削減を図ったり、製作現場では限られたコストで利益を上げる、いわゆる生産性の向上に取り組むことを「働き方改革」に繋げたりしています。大手企業は少しずつ対策を進める過程で、中小企業に業務を依頼することから、そのしわ寄せが中小企業に行くという面も見られます。仕事の進め方の共有ができるところから、時間はかかると思いますが、少しずつ進めている段階です。

一方で、余暇活動の提供等を進めることが呼び水となり、余暇活動があるから仕事を早く切り上げようとか、仕事が減ったから余暇活動を充実させようといった傾向も見られ、そのようなことが、結果として労働時間の短縮に繋がるのではないかと考えています。

(委員)

兵庫県は今年度、中長期的な視点から、「兵庫2030年の展望」を策定しました。これまでの時代の流れや世の中の動きを見てみると、今、時代は大きな転換期を迎えていると考えられます。例えば自動車の自動運転、AIの進化、ロボット技術の発達などは猛スピードで進んでおり、先ほどから「働き方改革」等の話が出ておりますが、それらもドラスティックに変わっていくのではないかと考えています。行政の仕事にしてみても、AIが実用化されてくると、かなりの部分の仕事が自動化され、人間がいらないという状態になる可能性も考えられます。加えて言えば、それが30～40年先の話ではないということであり、例えば自動運転車両に関しては、恐らく10年以内に実用化され世の中に出てくるのではないのでしょうか。そうなれば、今人間が従事している仕事そのものが無くなることも、可能性としては考えられる訳です。

これから10年、20年先を見据えた場合、今の延長線上に、今、想定していることの全てが存在するとは限らないということを理解しておくべきでしょう。そういうことを見通しておかなければ、行政計画もただの絵に描いた餅になりかねません。世の中のシステムを根本的に変えていく必要が生じるかも知れず、例えば、先ほどの「働き方改革」の話にしても、今は「7時間45分」という労働時間をベースにして検討されている訳ですが、人の労働が機械に代替されると、午前中だけ知的生産に従事し、午後の余剰時間については地域活動や自らの自己研鑽に充てる、といった時間の使い方も現実のものになるかも知れません。また、収入についても今は事業主から支給される給与が収入源の全てですが、いわゆるベーシックインカムといった制度が導入されると、すべからず住民には定額が支給され、プラスアルファの部分は自分の好きな仕事をする、そういった仕組みが考えられることになるかも知れません。

地方創生の戦略について述べれば、播磨町は、必要とされている施策をきめ細やかに展開されており、よくやっておられると思います。子育てに関する施策も以前から真摯に取り組まれており、その成果も数字に反映されていると思います。このような地に足をつけた取組は、今後もしっかりと続けていただき、加えて、新しい世の中にどう対応していくかという視点も持ち続けていただきたいと思います。

(会長)

続きまして、協議事項「(3) 播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間の延長について、資料4を基に説明

(会長)

ありがとうございました。

予定の時間もまいりましたので、本日の議事を終えたいと思います。

今後もより一層の総合戦略の推進に取り組んでいただくことをお願いいたします。

～ 福社会館内、キッチンスタジオ見学 ～

～ 播磨町商工会推奨品「大地のいちご」試食 ～

議事5 閉会